

牧師の書齋から

入江 喜久雄 牧師

今を生きる佐賀の方々へ——
聖書からのメッセージです。
お読みくだされば幸いです。



神の聖なる愛

「殺しません。日本は負けているのです」と書いたノートを掲げて沖縄読谷村の暗い洞窟に入って一人ひとりに見せて回った米兵がいました。敗戦直前1945年4月1日に沖縄に上陸した米軍の一人でした。しかも彼は上半身はだかの半ズボンで武器を持たずに自分の命をかけて、集団自決前の沖縄の住民一人ひとりに脱出を呼び掛けたのです。日本人を愛するがゆえに危険をかえりみず自分の命、存在をかけたのです。その米兵の声を聞いて洞窟から出て助かった人々がいたのです。

聖書の生ける神はご自身の存在をかけて「わたし(生ける神ご自身)の目にはあなた(人間)は高価で尊い」と、人間が生ける神様へ立ち返るように呼びかけました。それだけでなく、人となってこの世にいられたのです。この方がイエス・キリストです。

人間は、あなたはどのような人ですか？

聖書は「はじめに神が天と地を創造された」と一人ひとり神様が創造されたと語るのです。しかし、神はみ言葉を語り続けたにも関わらず人間はこの偉大な神を無視して、「主の道を歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった」のです。自分中心に生きたのです。その結果はどうでしょうか。「さびしく、ひとりぼっち」の絶望感と死への恐れ、罪責感は未解決のままです。また人間は自己中心です。それは神に背を向けた状態で、罪と言います。その結果「内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出てきます。淫らな行い、盗み、殺人、姦淫、貪欲、悪行、あざむき、好色、

ねたみ、ののしり、高慢、おろかさで、これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです」そして、人はこの状態を自分の力で変えることは出来ないのです。

ところが、この人間、私、あなたを母の胎内で創造された神は全身全霊で「わたし(神)の目にはあなたは高価で尊い」と語り、さらに「わたし(神)はあなたを愛している」と言われるのです。この文章の流れでは「わたしの目」から「わたし」に変わり、「高価で尊い」という神のまなざしから「愛している」という強い行動へと変化しています。このように神の愛は口先ではなく行動をともなったものなのです。

その愛は何でしょうか。聖書は語っています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめのささげ物として御子(イエス・キリスト)を遣わされました。ここに愛があるのです」この意味は、神のひとり子イエス・キリストは私たち人間の罪の身代わりになって十字架で死に三日後に肉体の復活をなさり罪の赦しを完成なさったという事なのです。あなたはこの事実をどのように考えますか。聖書は「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」と語っています。

人間の腐敗した心をきよめて、罪から離れさせて下さるのが、イエス・キリストの血なのです。このイエスキリストに自分の罪を告白し、この方を心に受け入れるならあなたは救われるのです。

時々刻々

今も続いている マインド・コントロール

霊感商法と合同結婚式で問題化し続けている「旧統一教会」と政治家たちの癒着が報道されています。信者になるとだれもがなぜ合同結婚式に行くのか？多額なお金を渡すのか、などの疑問を人は持つでしょう。その答えは人間を変えてしまう「マインド・コントロール」にあります。これはどのような意味なのでしょう。かつて米国で自ら「旧統一教会」員であったスティーブ・ハッサン氏はその著書『マインド・コントロールの恐怖』で次のように述べています。「それは、個人的人格(信念、行動、思考、感情)を破壊して、それを新しい人格と置き換えてしまうような影響力の体系のことである。多くの場合、その新しい人格とは、もしどんなものか事前にわかっていたら、本人自身が強く反発したであろうと思われるような人格である」このように最も大切な人格を変えてしまう恐ろしいものなのです。

家族、知人が本人に脱会を迫っても、本人は「迫害」と受け止め燃えて行きますので取りつく島がありません。ただ、組織に入った後、疑問を持ち「自分でやめた人々」また「放り出された人々」「カウンセリングで救出された人々」がおられます。その方々が「やめた後に残るカルト的人格」は根本的に教祖や組織に対する感情が整理できずに「悪夢、罪責感、その他の情緒的問題」「神様から罰がくだる」「組織を裏切った者は神様から見捨てられ、ハルマゲドンで滅びる」の恐れから脱出していないようです。あなたはこの「恐れ」からの出口を知っていますか？ また誰でも「死ぬのが怖い」「罪を犯してしまった」「見捨てられる」などの根本的な「恐れ」があります。解決はどこにあるのでしょうか。

イエス・キリストにあります。なぜでしょうか？ イエス・キリストだけが罪と死と悪魔と地獄に勝利したからです。

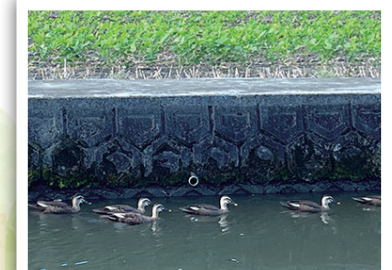
イエス・キリストは罪がないにもかかわらず、人間の「ねたみ」から十字架に引き渡され死なれたのはAD30年4月7日(金)15時頃でした。十字架上のキリストは「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」と言って息を引き取られました。ところが、三日後にキリストのからだは「よみがえられたのです」その後、イエスキリストは天に昇って行かれ神の右の座におられます。

さて、この歴史的事実とその意味は何でしょうか。聖書には次のように書かれています。「そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした」神に敵対しているゆえに、人は生涯、死の恐怖にさらされていますが、キリストはその死によって死と死の力を持つ者を滅ぼし肉体によって復活したのです。

さらに「主ご自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』と言われた」(聖書)のです。これらは当時の人々だけではなくあなたにもこのみ言葉をお語りになっています。「ぜひ、この素晴らしいイエス・キリストを知ってくださいますように。まずはご一緒に聖書を読んでみませんか。お気軽にご連絡ください。

散歩タイム

すがすがしい朝、
鍋島の田んぼ近くで
ほのぼのとした光景に
出会いました。



9月の予定

歓迎礼拝

■講師■ 入江 喜久雄 牧師

Kikuo Irie

ハイキング、キャンプ、ドライブ大好きです。妻と母の3人で佐賀市に住み、佐賀の街、田んぼ、山、海をゆっくり楽しんでます。

日本同盟基督教団の牧師として、埼玉、千葉、福岡で働き、この4月より佐賀バイブルチャーチ牧師。「ブリエアール・エンリッチ JAPAN」(結婚の備え、結婚後の関係づくりのために開発されたプログラムで、全米1の普及率を持っています)のファシリテーター(支援者)。ご相談ください。聖書を語ります。



◆9月25日 日曜日 10時半～12時

■メッセージ

「たましいを生き返らせて下さる神」

旧約聖書 (詩篇 23 篇 3 ~ 4a)

あなたには心から湧き上がる喜びはありますか。イエス・キリストは私を「むなしさ」と「孤独」から救い出して下さいました。今は私と共におられ真理に導いて下さっています。

このお方は私だけでなく、誰でも求める人には愛と恵みを与えて下さる素晴らしい救い主です。この方を聖書によって知りませんか。

旧約聖書

詩篇 23 篇 3 ~ 4a

主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。

たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわざを恐れませんが、あなたがともにおられますから。

聖書 新改訳2017©2017新日本聖書刊行会

教会と集会紹介

■集会案内■

● 主日歓迎礼拝 (日曜日)

10:30 ~ 12:00

教会には讃美歌、聖書が備えられております。主日歓迎礼拝では自由献金があります。

● 祈り会 (水曜日)

19:30 ~ 21:00

聖書の学び会

● 聖書を読む会を佐賀市、神崎市、小城市などで開きますのでお知らせください。また個人相談などを受け付けておりますので、お気軽にお電話下さい。

● 聖書の世界をみんなで味わう ZOOM読書会に参加してみませんか。

(ご希望の方はメールでお申し込み下さい)

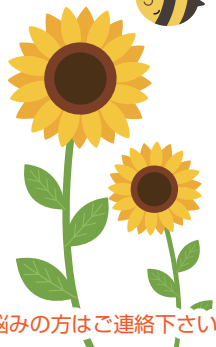


■教会■ 日本同盟基督教団 佐賀バイブルチャーチ

感染防止対策を
実践して
おります。



バス停「津留」から歩いて2分。



私たちの教会はプロテスタント教会で異端(旧統一教会、エホバの証人、モルモン教)と一切関係ありませんが、お悩みの方はご連絡下さい。

〒849-0937 佐賀市鍋島2丁目5-24 ホープビル102号

0952-97-6384(転送あり) sagabilechurch@gmail.com

佐賀バイブルチャーチ <https://sagabilechurch.com/>



YouTube